



平成23年秋季特別展

「御三卿」(ごさんきょう)

一橋徳川家と田安徳川家

- 会場 2階 企画展示室
- 会期 平成23年10月14日(金)～11月23日(祝)
- 休館日 平成23年10月31日(月)
11月14日(月)、15日(火)

「御三卿」、それは江戸時代に8代将軍徳川吉宗の2人の息子と9代将軍家重の息子が立てた、一橋徳川家・田安徳川家・清水徳川家の3家のこと。将軍家の身内である御三卿は、将軍家や大名家へ多くの養子を輩出した。越前松平家にも一橋家から2人、田安家から1人が入って福井藩主となっている。

今回は、御三卿の中でも特に越前松平家と縁の深い一橋家と田安家を取り上げて、両家に伝來した貴重な史料や美しい美術品などによって、御三卿とはどのような家だったのか、そして福井との関係の深さについて紹介する。

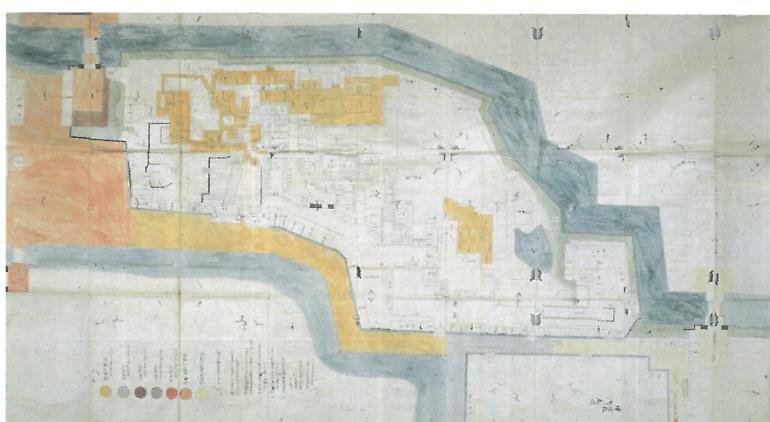
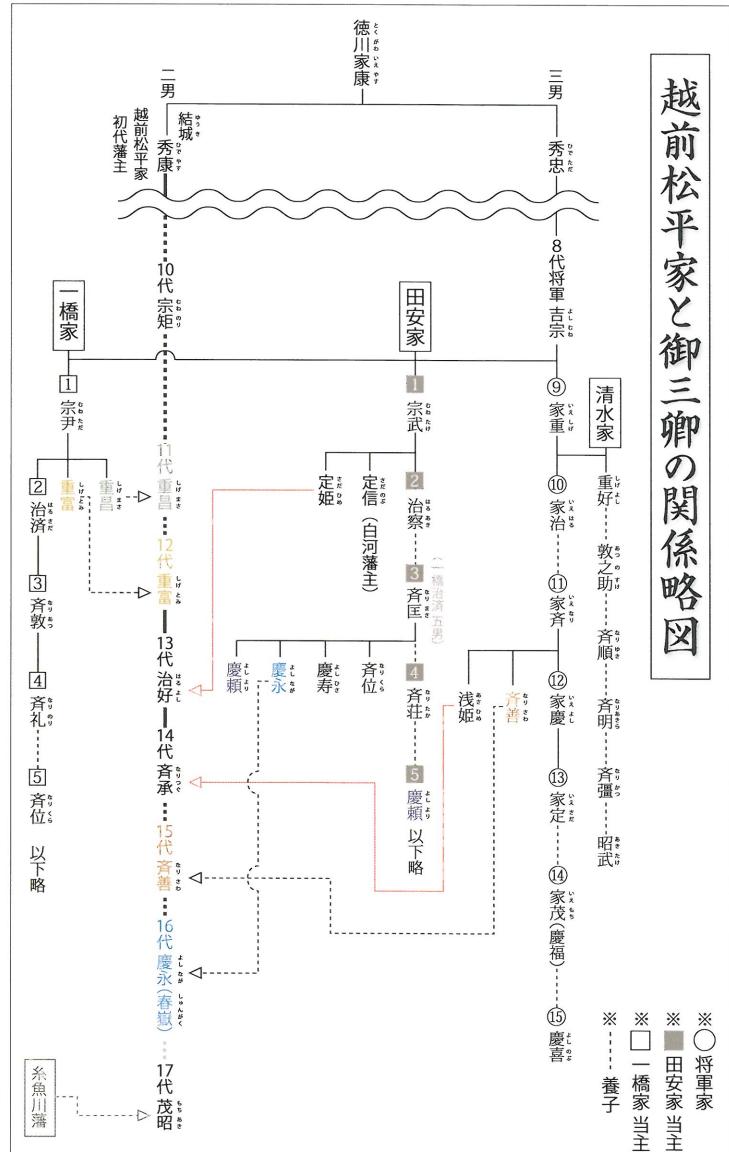
第一章

御三卿の成立と特徴

「御三卿」とは、徳川将軍家の親族、身内であり、田安徳川家・一橋徳川家・清水徳川家の3家のこと。田安家・一橋家は8代将軍吉宗の2男宗武・4男宗尹をそれぞれ祖とし、清水家は9代将軍家重の2男重好を祖とする。

御三卿は江戸城郭内の田安・一橋・清水門内に屋敷と10万石の領知を与えられて成立したが、将軍家の親類筋に当る尾張・紀伊・水戸の「御三家」のような大名ではなかった。そのため、参勤交代などを勤める必要はなく、主要な家臣の多くも直臣ではなく、幕臣の中から派遣されていた。また、大名家ならば、跡目がなく藩主を欠いた場合、家は廃絶となるが、御三卿では当主を欠いても、新たなる当主が決まるまで、「明屋形」と称して家のみが残った。さらに、将軍との関係においては、最も親近な間柄から「御三家」以上に特別な待遇を受けたとされる。

この章では田安・一橋両家に関わる資料を中心に、将軍家とのつながりやその特徴を紹介する。



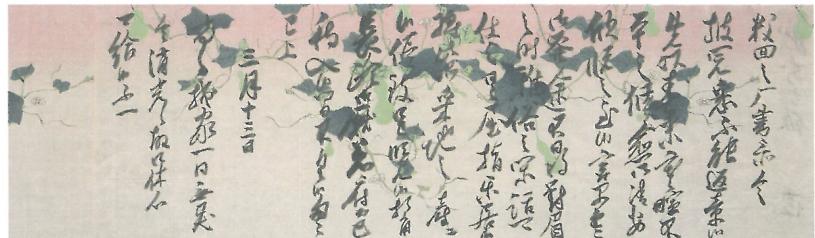
一橋屋敷絵図 茨城県立歴史館蔵

第二章 一橋・田安家と越前松平家

御三卿の子息の中には、将軍家や御三卿、御三家や親藩その他の大名家へ養子に入った者も多く、一橋徳川家からは、11代将軍家斉と15代将軍慶喜を輩出した。

諸大名の中で最も早く、御三卿から養子を貰い受けたのは越前松平家である。延享4年(1747)に一橋家初代宗尹の嫡子小五郎(後の11代藩主重昌)が、10代藩主宗矩の養子となつたのが最初であり、宝暦8年(1758)には11代藩主重昌が病死したため、一橋家の嫡男で重昌の弟に当る仙之助(後の12代藩主重富)が松平家を相続した。また、天保9年(1838)には、徳川(田安)斉匡の8男錦之丞(後の慶永)が、15代藩主斉善の養子に入り、16代藩主に就いている。なお、一橋家の2代治済の子息で、13代藩主治好の養子となつた者もいるが、早世している。

この章では、一橋・田安両家と越前松平家とのつながりを中心に紹介する。



徳川斉匡書状 福井市春嶽公記念文庫

第三章 一橋徳川家の家風と名品

2人の将軍を輩出した一橋徳川家。2代当主一橋治済は11代将軍家斉の実父として幕府に影響力を持つなど、一橋家は御三卿の中で最も将軍家とつながりが深かつたといえる。

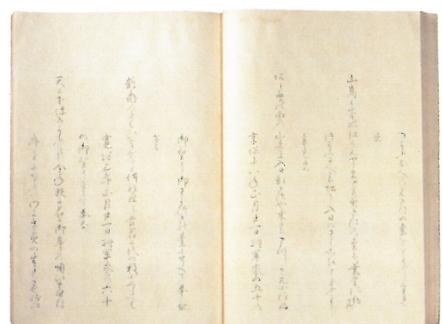


狩野探幽筆「七福神図」茨城県立歴史館蔵

第四章 田安徳川家の家風と名品

文芸の家として名高い田安徳川家。初代宗武は学問好きで、父吉宗から貴重な書物を分け与えられ、それを基に立派な蔵書群を作ったことが知られる。自らも生涯にわたって有職故実や雅楽、和歌などの研究に没頭し、専門家からも教えを受けた。そしてその家風は宗武の子孫たちにも受け継がれていった。

ここでは、田安家や越前松平家に伝來した品々から、田安家の人々と、その文化的側面を紹介する。



「悠然院様御詠草」
国文学研究資料館蔵 (田安徳川家旧蔵)

次の展示

〈松平家史料展示室〉

テーマ展 「越前松平家の名品10」

平成23年11月16日(水)～平成24年1月15日(日)

企画展示室 展示解説シート No.61
平成23年10月14日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話 (0776)21-0489 FAX(0776)21-1489
担当 印牧信明・高瀬裕美
印刷 白崎印刷株式会社
電話 (0776)53-6300 FAX(0776)53-7068